

財政状況等一覧表（平成19年度）

(単位:百万円)

団体名 乙部町

標準税収入額等 A	普通交付税額 B	臨時財政対策 債発行可能額C	標準財政規模 A+B+C
435	1,700	118	2,253

1. 一般会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
一般会計	3,263	3,175	88	86	-	4,807	
一般会計等	3,263	3,175	88	86		4,807	

2. 公営企業会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	備考
国民健康保険事業特別会計	665	619	46	46	72			
老人保険事業特別会計	707	679	28	28	55			
介護保険事業特別会計(保険勘定)	432	417	15	15	78	139	13	
介護保険事業特別会計(サービス勘定)	295	282	13	13	2			
国民健康保険病院特別会計	490	498	8	293	119	17		14 法適用
簡易水道事業特別会計	219	216	3	3	3	478		50 法非適用
公共下水道事業特別会計	324	321	3	3	153	1,386		1,303 法非適用
漁業集落排水整備事業特別会計	157	156	1	1	8	504		法非適用
公営企業会計等 計				402		2,524	1,380	

- (注) 1. 法適用企業とは、地方公営企業法を適用している公営企業である。
 2. 法適用企業に係るもの以外のものについては「総収益」「総費用」「純損益」の欄に、それぞれ「歳入」「歳出」「形式収支」を表示している。
 3. 「資金剰余額/不足額(実質収支)」は、地方公共団体財政健全化法に基づくものであり、資金不足額がある場合には負数(-)で表示している。
 4. 「左のうち一般会計等繰入見込額」は、企業債(地方債)現在高のうち将来負担比率に算入される部分の金額である。

3. 関係する一部事務組合等の財政状況

(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等負担見込額	備考
南部松山衛生処理組合	911	880	31	31	-	789	61	
檜山広域行政組合	1,546	1,511	35	35	-	22	2	
渡島・檜山地方税滞納整理機構	55	48	7	7	-	-	-	
一部事務組合等 計				73		811	63	

4. 地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況

(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は正味財産	当該団体からの出資金	当該団体からの補助金	当該団体からの貸付金	当該団体からの債務保証に係る債務残高	当該団体からの損失補償に係る債務残高	一般会計等負担見込額	備考
乙部振興公社	4	37	6	0					
乙部観光	9	47	30	0					
元和台観光公社	3	14	4	0					
エーシービー	64	748	26	0					
地方公社・第三セクター等 計			66	0					

- (注) 損益計算書を作成していない民法法人は「経常損益」の欄には当期正味財産増減額を表示している。

5. 基金の状況

(単位:百万円)

充当可能基金名	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A
財政調整基金(a)	368	433	65
減債基金(b)	1,181	1,184	3
その他充当可能基金(c)	935	935	0
充当可能基金 計(d)	2,484	2,552	68

(単位:百万円)

その他基金名	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A
備荒資金(超過分)(e) 合併特例債により達成された基金(f) (該当する市町村のみ記載)	83	83	0
その他(d-e)いすれにも当てはまらない基金(g)	133	146	13
合計(d+e+f+g)	2,700	2,781	81

- (注) 1. 「充当可能基金」とは「将来負担比率」の算定において、一般会計等が今後負担すべき地方債の償還などへ充てることができる基金の額をいう。
 2. 上記基金は地方債の償還等に充当可能な現金、預金、国債、地方債等の合計額であり、貸付金及び不動産等を含まない。

6. 財政指標の状況

財政指標名	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A	早期健全化 基準	財政再生 基準	資金不足比率 (公営企業会計名)	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A
実質赤字比率	4.43	3.83	0.60	15.00	20.00	国民健康保険病院特別会計		76.3	
連結実質赤字比率		21.75		20.00	40.00	簡易水道事業特別会計		4.4	
実質公債費比率	14.5	14.6	0.1	25.0	35.0	公共下水道事業特別会計		13.0	
将来負担比率		-		350.0		漁業集落排水整備事業会計		254.5	
財政力指数	0.16	0.17	0.01						
経常収支比率	81.1	79.8	1.3						

- (注) 1. 「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「資金不足比率」は負数(-)で表示しており、収支が黒字の場合には便宜的に当該黒字の比率を正数で表示している。
 2. 「資金不足比率」の早期健全化基準に相当する「経営健全化基準」は、公営競技を除き、一律 20%である(公営競技は0%)。